

自転車利用実態定点調査報告(A地点)

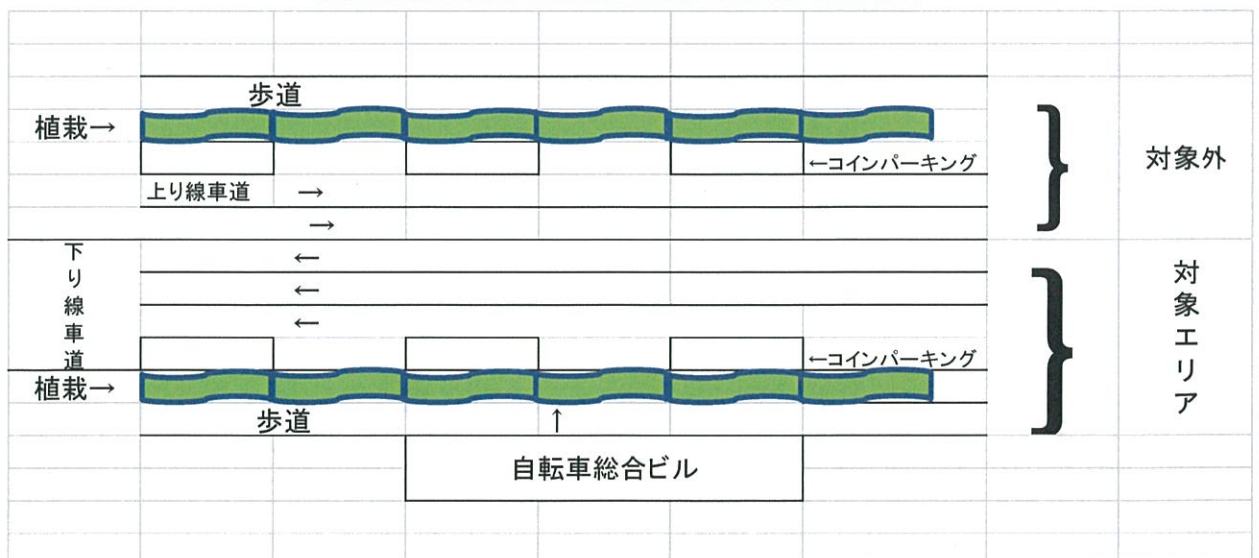
平成 30 年1月

(一財)日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年12月1日～28日
 [午前]9:00～10:00 [午後] 14:00～15:00

- 調査場所** ・ 自転車総合ビル前（目黒駅方面に 50m 程緩い下り坂）
- 概要** ・ 調査対象(車道線:目黒通り下り 3 車線[内側 1 車線駐車帯]
 (歩道:幅員 5m・植栽 1.5m～2mのため、実質通行幅 3m～3.5m)
- ・ 調査対象外(車道線:目黒通り上り 2 車線[内側 1 車線駐車帯]及び上り歩道)



調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

自転車利用実態定点調査票

No.	走行空間				車種	雨天		危険運転行為						
	車道左側	車道右側	歩道中央	歩道		歩	雨	危険無視	スピード出しすぎ	子乗せ	立ち漕ぎ	ハンドルに荷物	過積載	その他
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														
8														
9														
10														
11														
12														
13														
14														
15														
16														
17														
18														
19														
20														
21														
22														
23														
24														
25														

調査日時：	平成	年	月	日	()
天気：					気温：
調査時間：			～		

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、16～31%と多岐にわたるが、平均すると22%程度である。

依然、歩道を通行する自転車が多く、今回も、全体の7割強を占めている。同一地点(個別データ)においても、午前と午後で異なったデータとなっている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、肩に荷物(125件)・ハンドルに荷物(79件)・片手運転(46件/内9件は、携帯電話を使用しながらの運転)・立ち漕ぎ(42件)・過積載(34件)・歩道上でのスピードの出しすぎ(23件)・子乗せ後部席に荷物掛け(*1)(19件)・車道右側走行(18件)・ジグザグ運転(9件)・脇見運転(4件)等の順となっている。

*1 子乗せ後部席に荷物を掛ける事は、もし、気が付かない間に落下して、歩行者や自転車等に迷惑(通行障害・事故起因等)を及ぼしかねないので、基本、止めた方が望ましい。

【総合】

今回は、平成 29 年度第 9 回目の調査となり、平成 29 年 4～12 月分の 9 カ月期間の様々な点で比較してみた。

- ・利用者別 今回も、午前が午後の利用者を上回った。

- ・車道左側走行率 今回(22.1%)は、9 カ月間中では上位で、9 月(23.3%)・12 月及び 10 月(22.1%)・6 月(21.8%)・8 月(21.3%)・11 月(20.1%)・7 月(19.7%)・4 月(19.6%)・5 月(19.4%)の順である。
 なお、午前 (22.0%)は、9 カ月間中では上位で、9 月(23.6%)・12 月(22.0%)・10 月(21.5%)・11 月及び 6 月(21.4%)・4 月(21.3%)・8 月(20.8%)・5 月(19.9%)・7 月(19.5%)・11 月(18.9%)の順である。
 また、午後 (22.2%)は、9 カ月間中では上位で、9 月(23.0%)・10 月(22.8%)・12 月(22.2%)・8 月(21.9%)・6 月(21.8%)・11 月(21.4%)・7 月(20.0%)・5 月(18.8%)・4 月(17.9%)の順である。

- ・子乗せ自転車 今回(25.8%)は、9 カ月間中では上位で、11 月(26.9%)・4 月(26.2%)・9 月・10 月及び 12 月(25.8%)・5 月(25.7%)・8 月(23.9%)・7 月(23.4%)・6 月(21.8%)の順である。
 なお、同自転車における同乗者あり(35.7%)の場合でのヘルメット着用率は、78.0%(週平均は、61～100%の範囲で推移)である。
 今回(78.0%)は、9 カ月間中では上位で、11 月(78.4%)・6 月及び 12 月(78.0%)・10 月(77.9%)・9 月(76.2%)・5 月(74.4%)・7 月(71.9%)・4 月(70.5%)・8 月(69.1%)の順である。

- ・電動自転車 今回(40.1%)は、9 カ月間中では中位で、10 月(43.3%)・4 月(41.5%)・11 月(40.8%)・12 月(40.1%)・5 月(39.8%)・9 月(38.7%)・8 月(38.5%)・7 月(35.9%)・6 月(34.9%)の順である。

- ・危険運転行為 上位 3 件別では、[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転] の順であり、期間中の共通項目は、全項目である。

- (違反行為を含む) 一方、下位 3 件別では、[車道右側走行・ジグザグ運転・脇見運転] の順であり、期間中の共通項目は、該当なしである。

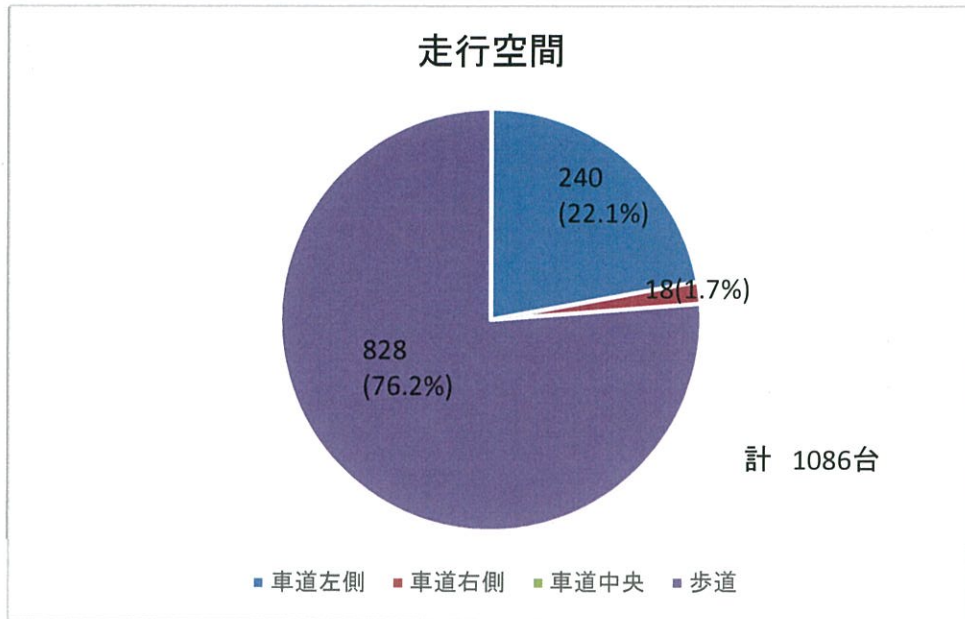
なお、今回も、肩に荷物・ハンドルに荷物だけで、全体(405件)の5割(204件)を占める形となった。

(危険防止の観点から籠の装備や荷台に装着等の必要性がある)

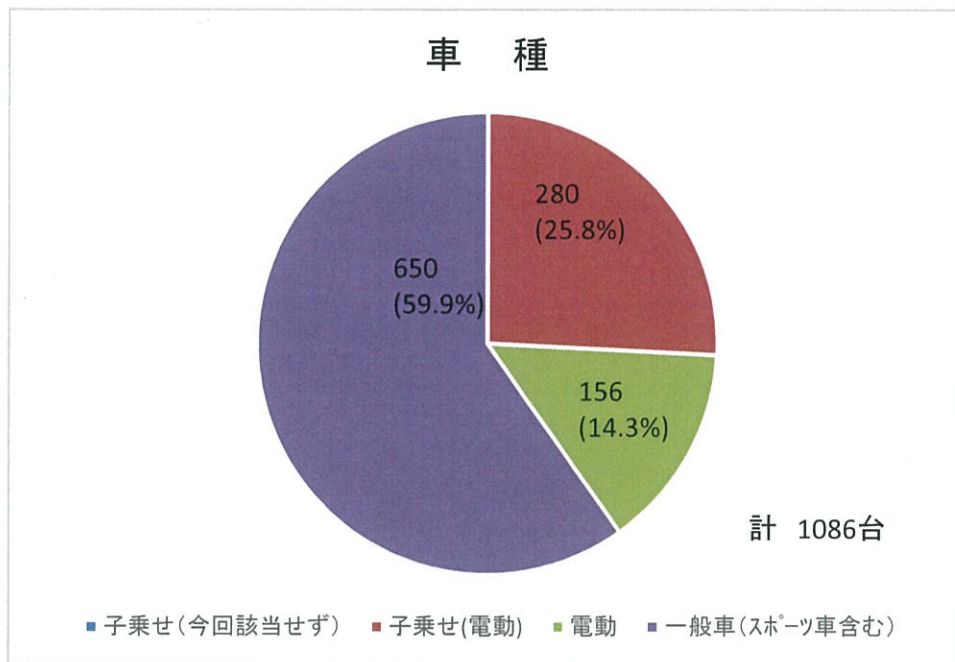
また、利用者全体(1086名)における危険運転行為(違反行為を含み405件)の比率は、割合上(*2)では、35%となっている。

*2 実際は、1名で複数の危険運転行為等を実施している件(26件)も含まれるため

なお、現在、調査地点の近くに臨時のバス停(1年の期限付き)が設置されているため、車道右側走行者は、バス接近時において危険な状況(同様にバス側からも対向車となり危険)となるため、速やかに止めるべき行為である。

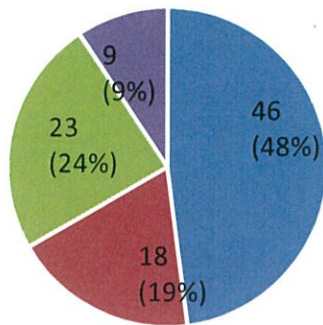


調査期間 12/1～28



調査期間 12/1～28

違反運転行為



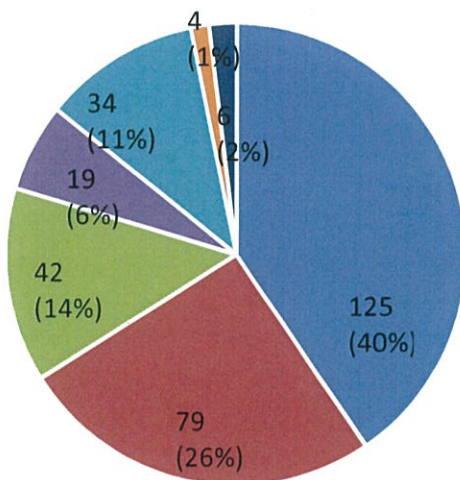
計96件

- 片手運転 * 1
- 車道右側
- スピード出し過ぎ
- ジグザグ運転
- 斜め横断(今回該当せず)
- 車道中央(今回該当せず)

調査期間 12/1~28

* 1 内9件 携帯電話を使用中の運転

危険運転行為



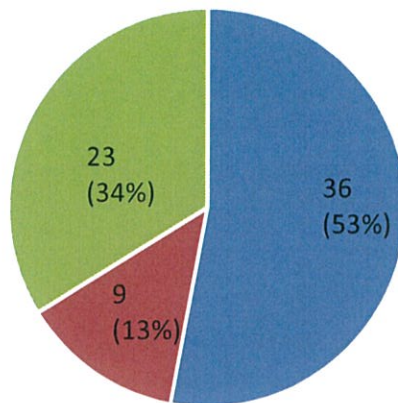
計 309件

- 肩に荷物
- ハンドルに荷物
- 立ち漕ぎ * 1
- 子乗せ後部席に荷物掛け
- 過積載
- 脇見運転
- その他

調査期間 12/1~28

* 1 比率内訳: 上り坂37・下り坂5

違反運転行為(歩道上)



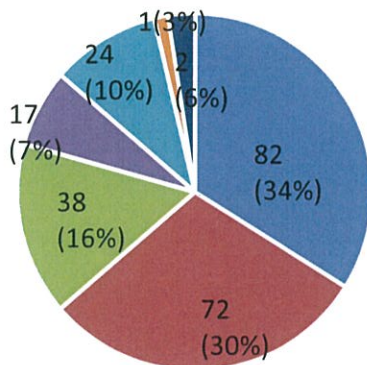
計 68件

■ 片手運転 *1 ■ ジグザグ運転 ■ スピード出し過ぎ

調査期間 12/1~28

*1 内8件 携帯電話を使用中の運転

危険運転行為(歩道上)

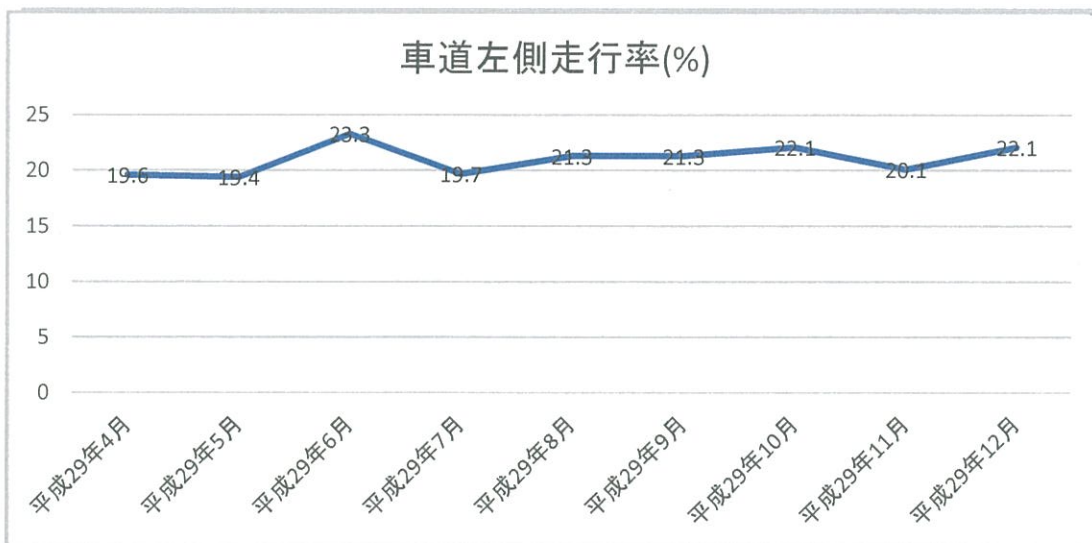
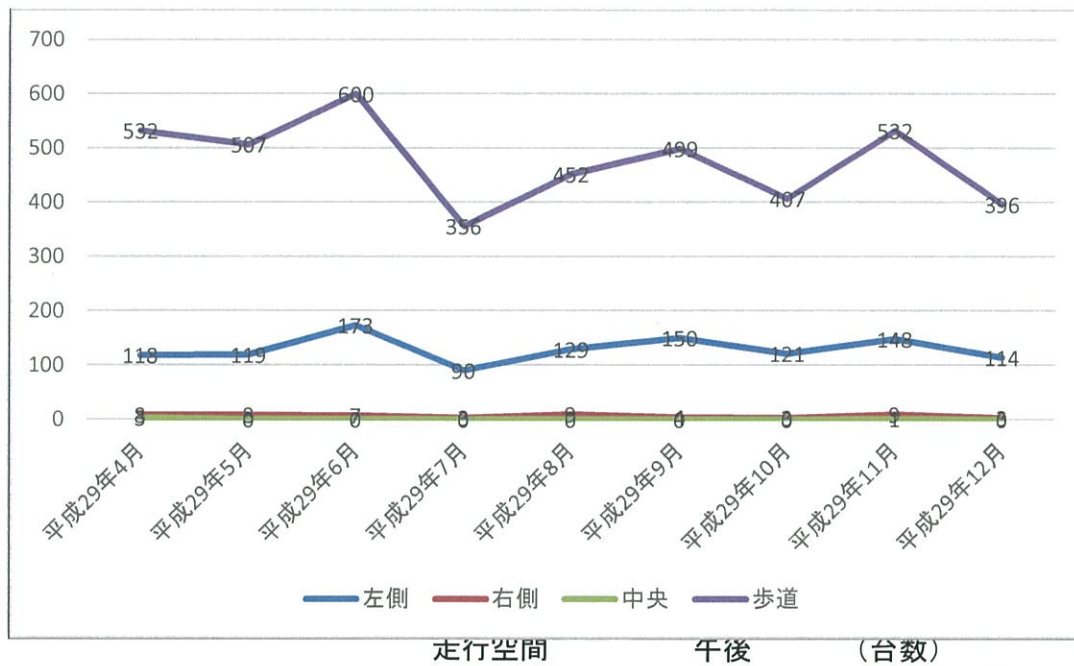
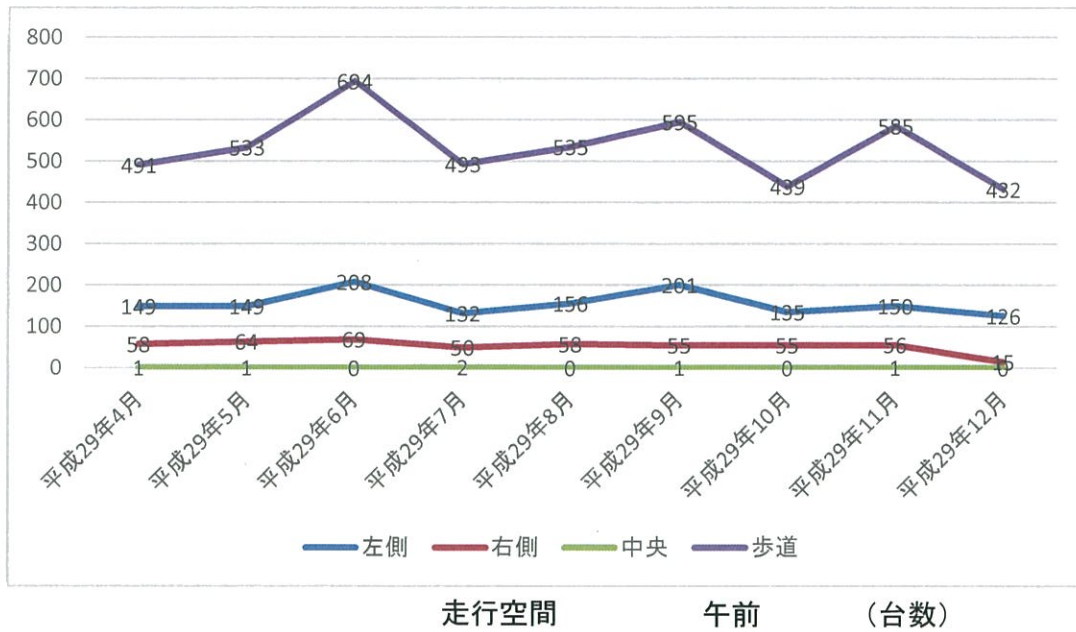


計 242件

■ 肩に荷物 ■ ハンドルに荷物 ■ 立ち漕ぎ *1
 ■ 子乗せ後部席に荷物 ■ 過積載 ■ 脇見運転
 ■ その他

調査期間 12/1~28

*1 比率内訳: 上り坂35・下り坂3



自転車利用実態定点調査報告（B地点）

平成 30 年1月

（一財）日本自転車普及協会

調査目的 自転車は車道左側走行が原則であるが、実際の自転車の走行状況の実態を調査し、その状況の問題点を探り一般に公開することで、望ましい走行空間の再考資料としていただくことを目的に行う。

調査日時 平成29年12月20日
[午前]9:00～10:00/ [午後]14:00～15:00

調査場所 ・ 白金幼稚園前（庭園美術館西交差点(首都高速目黒線直下)から70m程の上り坂)

概要 ・ 調査対象(車道線:目黒通り上り4車線及び歩道:幅員3.1m
[一部歩道橋橋脚部分1.5mあり])
調査対象外(反対側上り歩道)



上り線車道	歩道		←	対象外 対象エリア
	←直進・右折レーン		}	
	←直進レーン			
	←左折レーン			
	←左折レーン			
	歩道	↑		
		白金幼稚園		

調査事項 走行空間調査(車道、歩道)と危険走行調査

(2) 自転車利用者の走行空間調査

No.	走行空間				車種	乗次	危険運転行為						
	車道左側	車道中央	歩道	その他			違反行為	危険運転	危険運転	危険運転	危険運転	危険運転	
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
25													

調査日時	年月	日	時	分	秒
大数	小数				
調査時間					

<調査票>

[コメント]

◎走行空間においては、車道左側走行率は、21%であり、また、車道中央走行率は、14%であり、依然、歩道を通行する自転車が、全体の6割強を占めている。

◎危険運転行為(違反行為を含む)は、車道中央走行(14件)・肩に荷物(8件)・片手運転(6件/内2件は、携帯電話を使用しながらの運転)・ハンドルに荷物(6件)・立ち漕ぎ(4件)・過積載(3件)・子乗せ後部席に荷物掛け(1件)の順となっている。

【総合】

今回は、前回に調査したデータ及び下り地点(自転車総合ビル前の12/21)とのデータについて以下の項目について比較してみた。

・車道左側走行率

今回(21.4%)は、前回(22.0%)と同様の水準である。
 なお、午前(26.0%)は、前回(24.7%)と同様の水準である。
 また、午後(8.0%)は、前回(17.3%)の5割の水準である。

なお、午前の上り地点の白金(以下、上り地点と呼称・26%)は、下り地点の自転車総合ビル前(以下、下り地点と呼称・24%)と同様の水準である。

また、午後の上り地点(8%)は、下り地点(29%)の3割の水準である。

・子乗せ自転車

今回(17%)は、前回(18%)と同様の水準

上り地点(17%)は、下り地点(28%)の6割の水準

なお、同自転車における同乗者あり(35%)の場合でのヘルメット着用率は、83%である。

今回(83%)は、前回(75%)の1.1倍の水準である。

さらに、ヘルメット着用率の上下線での比較として、上り地点(83%)は、下り地点(86%)と同様の水準

・電動自転車

今回(33%)は、前回(33%)と同様の水準である。

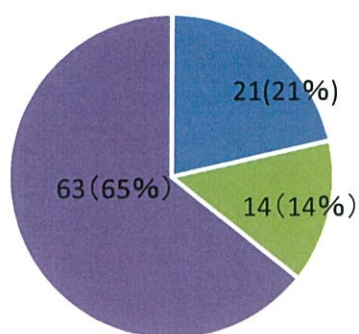
上り地点(33%)は、下り地点(42%)の8割の水準

・危険運転行為 上り地点の[車道中央走行・肩に荷物・ハンドルに荷物]に対し、
(違反行為を含む) 下り地点では[肩に荷物・ハンドルに荷物・片手運転]であり、共通項目は、肩に荷物・ハンドルに荷物の2件となっている。

なお、中央走行者については、基本的に電動自転車を使用していない。

さらに、車道中央走行が多い理由として、上り車線先の庭園美術館西交差点において、歩行者横断帯中央にて左折道路と直進道路が分断されており、直進する利用者は、同交差点のかなり手前から道路中央を走行していたが、4車線での中間(両隣が2車線)走行のため車両に挟まれてながらと、かなり危険な走行を強いられている感が窺えた。

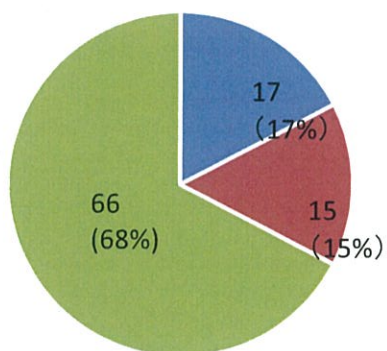
走行空間



計 98人

■ 車道左側 ■ 車道右側(今回該当せず) ■ 車道中央 ■ 歩道

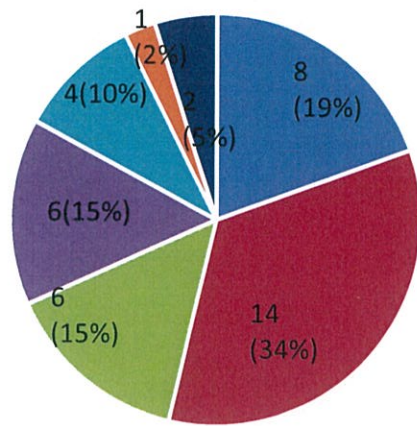
車種



計 98台

■ 子乗せ(電動) ■ 電動 ■ 一般車(スポーツ車含む)

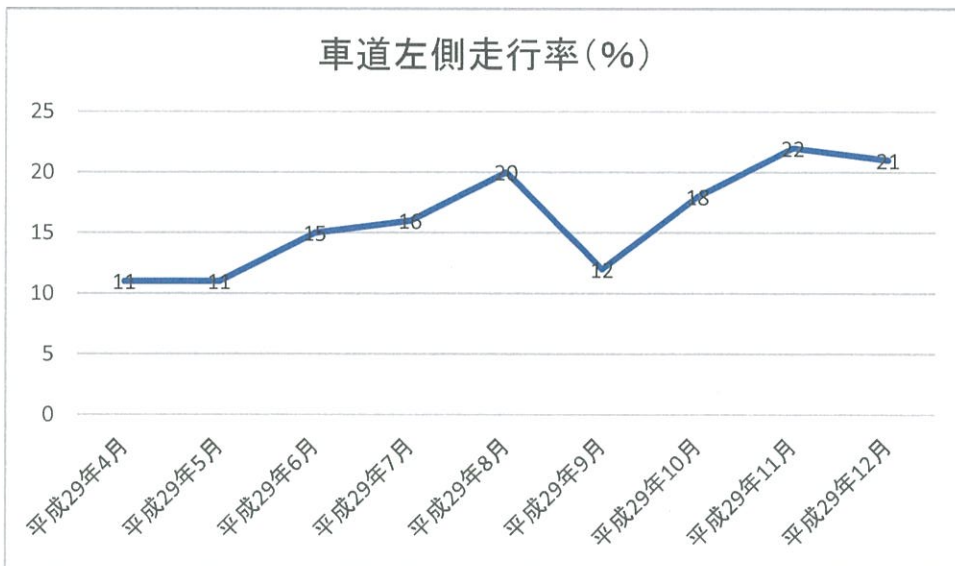
危険運転行為(違反行為含む)

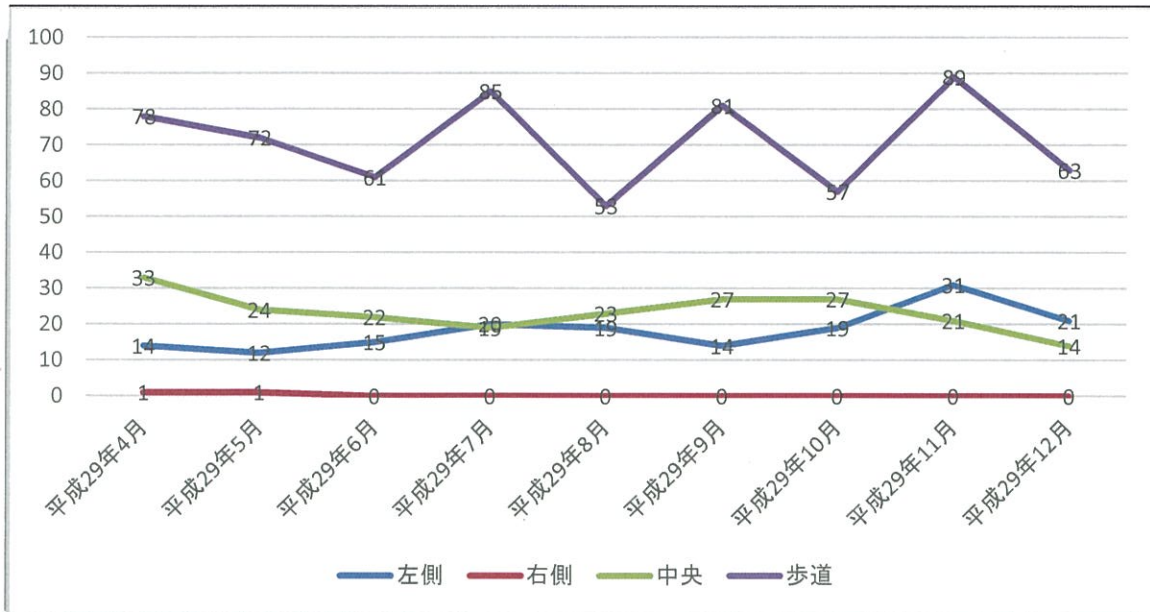


計 41件

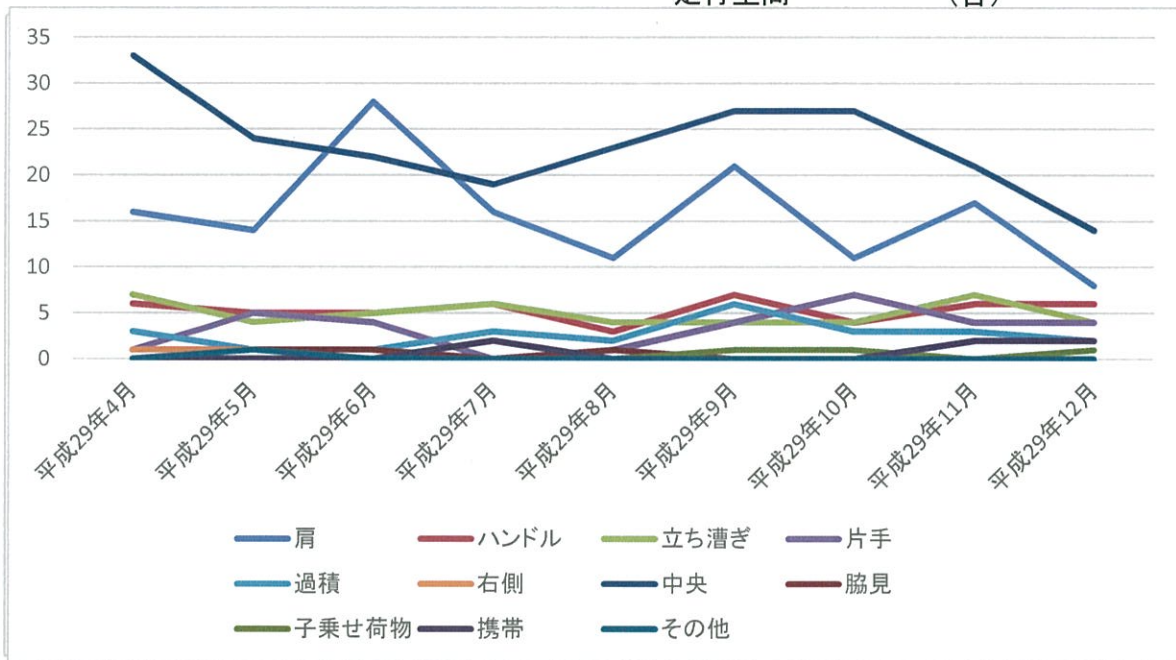
- 肩に荷物
- 車道中央
- 片手運転
- ハンドルに荷物
- 立ち漕ぎ
- 子乗せ後部席に荷物掛け
- 過積載

危険運転行為 (違反行為を含む)





走行空間 (台)



危険運転行為 (違反行為を含む) (件数)